活動レポート

127号

調布・生活者ネットワーク

市議会議員
木下安子

◆調布・生活者ネットワーク
〒182-0022 国領町 8-1-13 TEL: 042(487)3087
HP:http://chofu.seikatsusha.net/

新しい年が明けました。2020年も皆さまの声を市政に反映できるよう活動してまいります。
お気づきのことやご意見をお聞かせください。

第四回定例会 一般質問

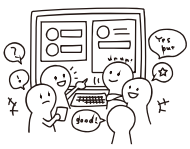
避難者に寄り添った避難所対応を！

昨年10月の台風19号により、市政施行以来、初めて避難勧告が発令され、延べ6千人が市内に開設された避難所に避難しました。その後、市民の方たちにお話を伺ったところ、雨の中で受付の列に並ばなければならなかった、椅子がないので膝が悪い高齢の方がきらめて帰ったなど、避難所での対応に課題があったことが明らかになりました。そこで、現場の状況に即した判断が出来るよう、今後の対策について聞きました。

答弁　当該地域の地区協議会からも意見を聞いており、2020年4月には「避難所開設訓練」を行う。

構想段階から市民との情報共有と意見交換を！

調布駅前広場のような大きな街づくりに関わる市の案が発表されると、「知らなかった」「絶対反対」という声が上がります。その原因は、情報共有が出来ていないこと、また市民参加の時期が遅すぎることだと考えます。市の市民参加プログラムでも「市民が事業の構想段階から参加することが必要」としているのに、市が作成した報告書では、これまでの市民参加は「事業実施段階」が最多となっています。この点について市に聞きました。



答弁　参加と協働のまちづくりの前提として情報共有を位置づけ、市民意識調査や無作為抽出で意見を聞いているが、一律に参加時期を定めるのは難しい。さらに工夫していく。

ファシリテーター（調整役）を介した話し合いの場を！

昨年、建設委員会では、宮崎県の延岡駅周辺整備プロジェクトと大分市の団地の再生事業を視察しました。どちらも中立的な立場で議論を調整するファシリテーターを登用し、市民と行政が対等な立場で合意形成を実現するワークショップを複数年行っています。

このワークショップはまさに、市民も行政も育つ場になっていると思いました。延岡市の市民ワークショップでは、ファシリテーターからの提案で、「ここは一方的に要望を述べる場所ではないこと、自分ならどのようにして実現させるか、提案も合わせてすること」が初回から徹底されたそうです。その結果、建設的な意見が増え、議論を積み重ねる重要性が理解されるようになりました。

さらに、行政と市民の間に信頼関係が生まれ、その後の施設の運営や管理に携わる市民や団体が増えたことも特筆すべき点です。そこで、市でもこうしたワークショップを行い、職員がファシリテートの技術を学んで調整役を務められるようになれば、まちづくりの手法も変革されると考え、市の見解を聞きました。

答弁　これまでにもファシリテーターを活用したワークショップを実践。市民活動支援センターとの協働で市民の声を生かす人材の育成のためにも養成講座を実施。今後も努力していく。